

科目	学年・小学科	単位数
科学と人間生活	2 学年	2
教科書	東京書籍	
副教材	東京書籍 『ニューサポート 改訂 科学と人間生活』	

1. 学習目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2. 学習方法

- 授業：教科書をもとにプリントやノートをとらせながら授業を展開していく。
身の回りに存在する科学および科学技術について、生徒の実体験や当たり前の自然現象を踏まえて説明していく。
また授業中に質問を投げかけることで、周りの生徒と共同で考えたり作業学習をする機会を設ける。
- 予習：特に予習は課さないが、事前に教科書に目を通すなどして授業内容の確認をしてもらうことが望ましい。
- 復習：授業内容の定着をはかるため、定期的に小テストを実施する。
知識を問う問題、思考を必要とする問題を織り交ぜ、単元の理解を深めてもらう。
- 課題：授業の進捗状況に合わせて、ワーク等の宿題を課し、知識の定着を図る。

3. 評価の観点と趣旨

① 関心・意欲・態度	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について問題を見出し、観察、実験などを通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③ 技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。
④ 知識・理解	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、観察・実験などを通して理解し、知識を身に付けている。
⑤	

